

## ★ トーテムポールについて

### <意味>

トーテム — totem (ふつうトーテムはある種の調刻とか象徴的圖案によつて表わされ、集団はそれとの連合の感情をもつ。)  
半開人の間に見だされる信仰の一つ。(特に北米土人間で世襲的に氏族の象徴としてある種の動物や植物、ときには天然現象を、あるいは人または集団のトーテムとし、人間とトーテムとの間に深いつながりのあらうこと信じ、かつその信仰に従つて行動すること。

トーテミズム — totemism = トーテム崇拜

トーテムに対する信仰を中心とし、ニホンを取り巻く神話、儀礼、社会組織などの構造をひっくりめたもの ..... 神や祖先としてあがめ信仰する遺傳。

### <ことばの由来>

トーテムといふことは、北米のオジブフ・インディアンのことばオトテマン(兄弟姉妹)の意を、白人の人が誤ってトタムと訛したのに由来する。

### <分布地域>

オーストラリア・アフリカ・北米などであるが、トーテミズムの習俗はいっそう広い地域に認めることができる。

日本における「つきもの」(キツネつき、犬神、こんばねなど)も、個人トーテミズムの特徴をいくつかをなしてゐる。

### <トーテミズムの諸相>

個人トーテミズム

北米のインディアンの向には、個人があの種の動物を自分の守り神とし、これと親しい関係を結ぶことが広く行なわれている。

(例) アルゴンキン族インディアン

成年期に断食などの苦行をすることによって得た夢をもとにして、ある種の動物を自分の守り神と定め、その動物によって超自然的な力を授かると信じていた。---

### 集团トーテミズム (トーテミズム属の筋道)

アフリカ、コニゴに住むウクンドラ族の場合。

氏族の長老はトーテム動物とともに通す能力をもち、たとえヒョウであつても鳥をしないばかりか、長老がすべきだ方に姿を現わし、ともに氏族のことを教へといふのである。

長老はまたトーテム動物から得た超自然力を護符(お守り)などの形でほかの氏族員に分け与える。この力はまた長老のむすこによって受け継がれる。

かゝては長老の個人トーテミズムであったものが、他のむすこによって受け継がれついにはそのすべての子孫、地域集团の全員のものとなつた。-----

しかし個人トーテミズムから集团トーテミズムへの移行は、農耕民の社会においてはじめて決定的なものとなつたと思われる。

### (氏族トーテミズムのルルル)

- 1) トーテムとなんらかの形でつながりがあるか、またはトーテムから出自したという信仰。
- 2) トーテムに対する敬い。
- 3) 婚姻の規制(氏族外婚)
- 4) 人畜とトーテムとは同じものだとする考え方。
- 5) トーテムによって命名すること。
- 6) 誓約によってトーテムに影響を及ぼすこと。

これらの要素は、一方においては狩猟民的な超自然力の信仰と、動物と(人間との)の結びつきを示し、他方においては農耕民的な血縁、出自、祖先崇拜などの重視を示す。したがつて氏族トーテミズムは、それまでち伝えられてきた狩猟民族んで、はじめて農耕が行なわれ、定着の傾きが強まる、人口の増した社会の信仰であると考えることができる。